

経営比較分析表（令和4年度決算）

千葉県 印西市

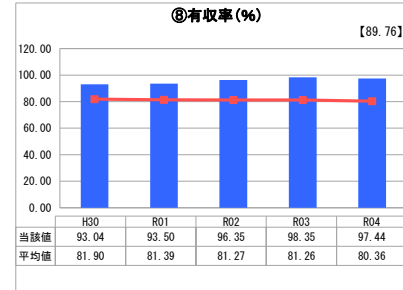
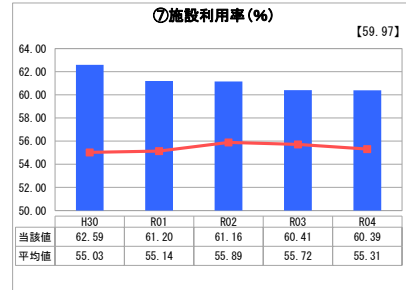
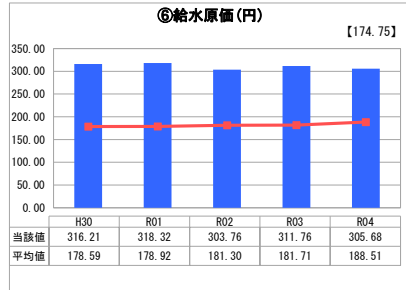
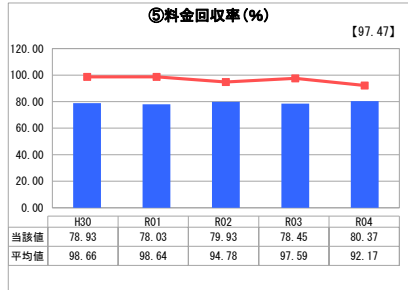
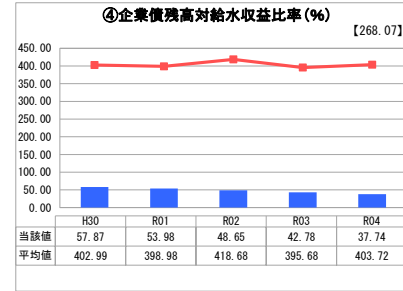
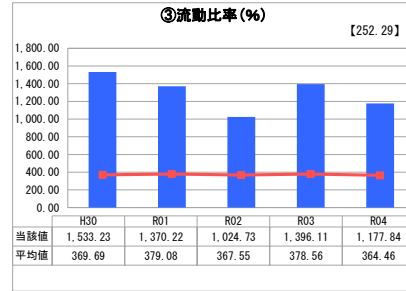
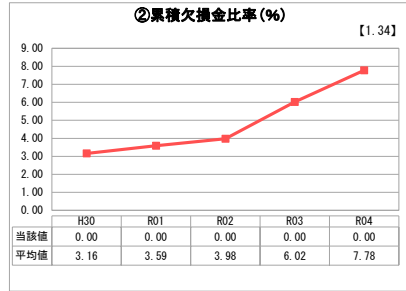
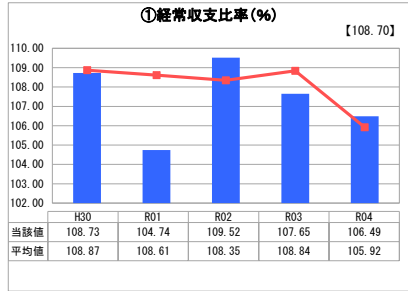
業務名	業種名	事業名	類似団区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	91.40	16.80	3,960	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
109,953	123.79	888.22
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
18,057	11.17	1,616.56

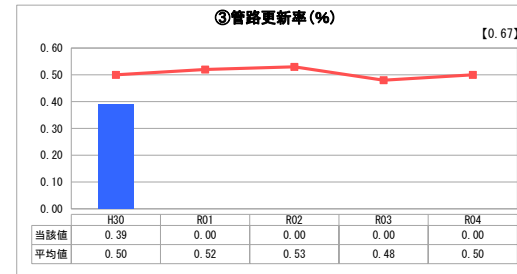
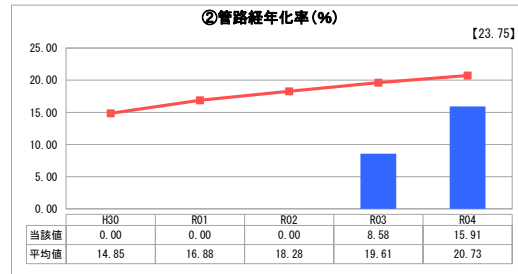
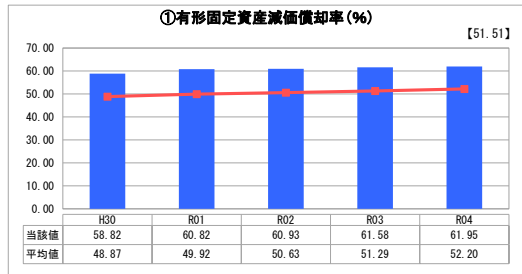
グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

印西市水道事業は、印旛広域水道からの受水の割合が高く、受水費が高額であるため、経営に与える影響が非常に大きくなっており、給水原価が高くなっている。

一方、印西市内には、当市営水道の他に県営水道、長門川水道企業団の2事業者があり、水道料金の差が大きくなりやすいような料金単価としているため、供給単価は給水原価を大きく下回り、料金回収率が低い。

これを埋めるため、市から高料金対策の補助金を受け、経常収支比率は100%付近を保っている。

企業債残高対給水収益比率は、新たな企業債の借入がなく、また償還も進んでいることから、類似団体と比較し、低い数値で推移している。

施設利用率の微減については、大口需要者の使用水量減や、一般家庭での節水、漏水減免、メーター不感知等による水量が減少傾向にあるため、一日平均配水量の減少に伴ったものである。

2. 老朽化の状況について

水道事業としては、供用開始が昭和57年と比較的に後発であるため、全体的には老朽化は深刻な状況ではないが、法定耐用年数を超えた管路延長が毎年増加するため、管路経年化率が上昇していく状況である。

全体総括

印西市内には、当市営水道の他に2事業者があり、水道料金の差が大きくなりやすいような料金単価としているため、類似団体と比較して料金回収率が低い。

また、水道の大口需要者が、水道と井水を併用している状況が続く限り、給水収益の改善は難しいので、今後とも経営の効率化に努める必要がある。

管路については、法定耐用年数を超えた管路延長が増加していくため、今後の更新については経営戦略及び施設更新計画に基づき進めていきたい。